

素人に出来る木工の話(一)

山 形 寛

まへがき

一寸鋸が使へる。釘が打てると言ふことは、どんな素人の人にも、家庭人にまつても重要なことです。特に幼稚園にお勤めの方にまつては、いさゝか木工に就て心得のあるのさ無いのさでは、いろ／＼な點に就て大變便不便を御感じになることゝ思ひます。

木工をやゝ専門的に修めやうとするさ、それはなか／＼面倒なことであり容易なことでありません、どんな素人の方でもやらうと言ふ意志さへあれば或る程度のこまは誰にでも出来ます。唯多くの方は、殊に御婦人の方はやつて見やうと言ふ意志を御持ちにならないから出来ないのです。此際勇氣をふるつて御試みになることを御奨めます。

こちらの保育實習科でも、倉橋主事の御意見もあり、昨年木工をやらせて見ました。なか／＼皆よくやりました相

當の成績を挙げました。それで茲にどんな素人の方にも、大した練習と言ふ程のこまをしないで、直ちに出来る程のこまに就て少しくお話をしてみたいと存じます。

鋸で板を切るこま

1、どんな鋸がよいか

鋸にはいろいろな形のものがありますが、素人の方が一挺で間に合はせるには、第一圖に示したやうな兩刃鋸りょうはのこぎりが便利です。大きさは八寸位のものがよいでせう。八寸と申しますのは鐵で出来た身の部分、圖のイロ間が八寸あるのを言ふのです。

鋸は良いのさ悪いのさでは大變値段がちがひます。安いものは最初の中一寸は切れますがすぐ切れなくなります。

學校で生徒に使はせたのは一圓位のものでした。二圓も出して下さるさ素人用としては相當よいのがあります。鋸は

切れなくなる目立と言ふ事をしなければならぬのです

が、之は素人には出来ませんが、一圓以下言ふやうな餘り安いものではなくて切れなくなつて拙いのです。

2、縦挽、横挽

鋸は齒の構造や何かに相當面倒な理窟もありますが、まあ素人にはあまり用の無いことですから略して置きますが、兩刃鋸の目の粗い方は縦挽たてびき申しまして木のもくめに添つて縦に切る時に用ひ、目の細かい方は横挽よこびき申しまして木の纖維を横斷する時に用ふのですから、これだけはまちがはないで下さい。

3、鋸で木を挽くには

ものさしか定規を當て、鉛筆で

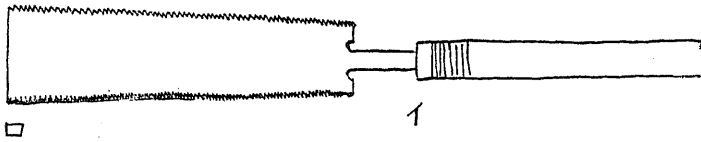
はつきりミ線を畫いて置き、其線の所へ、小さな木片か左手拇指の爪を線だけが見えるやうに當て、其木片か爪かに鋸の身を當て、齒のもこの方で靜かに挽きかけます。そして少し挽き口が出来ましたら木片又は爪を離して、左手で木を押へて右手で挽くか、脚で木を押へるなり、他の人に押へてもらふなりして兩手で挽くかするのです。

挽く時の姿勢は左脚を前に右脚を後に、片手で挽く時は右手で鋸の柄の端を持ち、兩手で挽く時は左手で身に近い部分を右手で柄の端を持つて挽くのです。挽き方はゆつくりミ鋸の齒の端から端まで全部を使つてまつすぐに前後に動かします、左右にふれては拙いのです。上手な人の挽いたのミ、下手な人の挽いたのミでは、挽き口を見ればすぐ解ります、下手な人の挽いたのは挽いて出来た溝の幅が廣く、ぶる／＼ふるえて居ますが上手な人の挽いたのはまつすぐな幅の狭い溝になります。

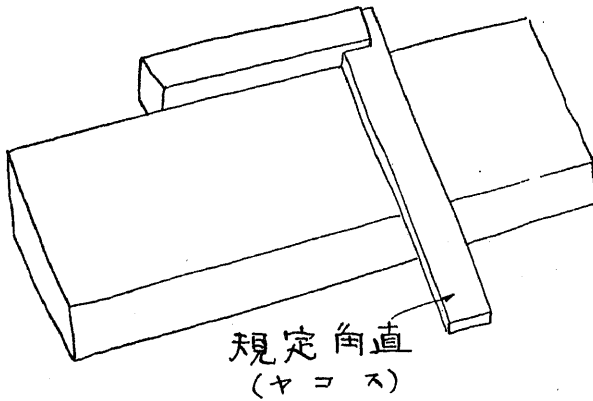
4、まつすぐに挽くには

初めの中はまたなか／＼まつすぐに切れないものです、之は目印の線をはつきりつけて置き、鋸の刃先の線ミ板

第一 鋸



の面さを三十度位にして挽けば、大抵まつすぐに切れます。又切った切口が、板の面に直角になり難いものですが、其は



第二回に示すやうに、直角定規(スコヤ)も云つてゐる。で板の表裏両面を側面(普通に小端を言つてゐます)に直角

な線を引いて置き、其線の通りに切ればよく行きます。

鋸の使ひ方に就てはまだ申上げたいことが澤山ありますが、かう言ふことは聞いたり讀んだりしただけではだめですから、先づやつてごらん下さい。習ふよりなれよですから。そして自分で先づやつて見てから聞いたり讀んだりするはつきりいたします。

釘の打ち方

1. 釘はだれにも打てるが上手に打つのはむづかしい。釘を言つてもいろいろありますが、普通の洋鐵釘に就てその打ち方をお話いたします。

或小学校で、釘位はだれでも打てる。そんなら皆で一つ打つて御覽なさいと言ふことになり、十人位の先生方がめい／＼釘を金槌を持って一本づつ釘を打つて見ました。そして手工を専門にやつてゐる或先生が點をつけました所、一人の女の先生が一等になりました。皆大不平であんなに斜に打ち込んだのにさうしてあれが一等ですかこつめよりました。その時手工の先生は斜に打つたから一等なのです、他の方はみな垂直に打つたからだめなのです釘を言

ふものは斜に打たなければよくきかないのです。説明しまだ。そしたら一等になつた女の先生が、さうですか私は又一所懸命に垂直に打たうと思つたのにさうして斜になつてしまつたのです。言つて大笑したことがあります。釘も上手に打つのはなかく困難なことです。やればだれにでもやれることです。

2. 釘の長さはぎの位が適當か

これは物によつて多少違ふが、大體から言へば板の厚さの二倍半から三倍位のものが適當です。即ち三分の板を打ちつけやうにするには、八分乃至一寸位のものが適當なのです。あまり短いと数多く打つてもきませんし、反對にあまり長いと、太さも従つて太くなるから、材料が割れたり、釘の先端が横に出たりします。

よく素人の方は長い釘は打ちにくいと言ふので、短い釘を澤山打ちたがるものですが、これは最も拙いやり方で、澤山打ちましたも、あまの釘を打つ時に、前に打つた釘が反動で皆ゆるんでしまつて一向かないものです。ですから適當の長さの釘を五寸位の所ならば先づ三本か四本位打て

ばよいのです。それ以上打つても、餘程打ち方が上手ならばきかく、普通ならばあまり有效では無いのです。

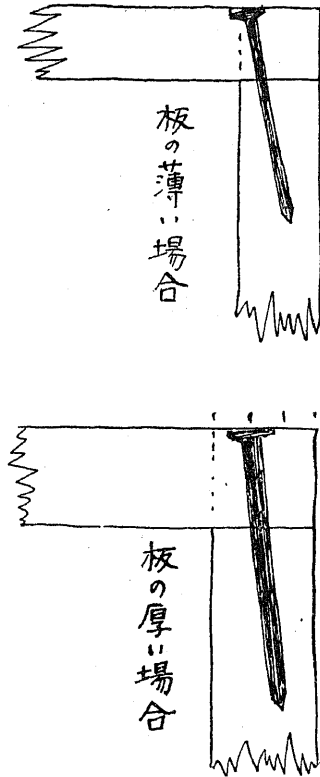
3. 釘を打ち位置方向はさうするか

釘を打つ位置は、一がいには言へませんけれど、板の兩端に近い所に一本づゝ打ち、あまは板の厚さや、長さによつて、一寸五分位から二寸、三寸位の間隔に、釘と釘との間が大體等しくなるやうに打てばよいのです。

釘の方向は、板の厚さが二分乃至四分位ならば、第三圖の上を示したやうに、大體板の厚さだけ内側から、外側に向つて、釘の先端が外に出ない位の傾斜を持たせて打つのです。丁度板の厚さの真中から打ちますと、上の板の端が缺けたり、釘の先が板面に出たりするばかりでなく、釘のきゝもよくありません。板が五分以上もあるものならば、第三圖の下に示したやうに、板の厚さの三分の二位はいつた所から、外側に向つて打てばよろしい。板が一寸もあると言ふやうな時には中央へ打つてもよろしいのですが、その時は少し左右に斜に打つとよくきゝます。

4. 錐で孔をあけてから打つとよい。

第三 四



釘もいけません。

5、打ち込みの要領

初めての方は、僅か八分か一寸位の釘を打つのに、こつこつと數十回も叩かれるのをよく見ますが、相當の重さの金槌でなるべく数少く叩いて打ち込むのがよいです。弱く何度も叩いて打ちます

少し上達すれば孔なきあけなくても、普通の場合ならば

其儘打つてよいのですが、初の中は、木の繊維にさまたげられて、思ふ様な方向に打てないものですから、釘の方向を定めるに足るだけの錐孔をあけて置いてから打つが宜しい。

錐には三つ目ミ申して先端が三角錐状をして、中からの方が丸棒になつてゐるものミ、細長い四角錐状をした四つ目錐ミがありますが、大きな長さの二寸も三寸もある釘を打つ時には前者を、小さい釘を打つ時には後者を用ひるがよろしい。錐孔は釘の方向を定めるに足るだけでよろしいのですから、あまり大きく深くあけては釘がきかなくなつてその釘のきゝもよくありませんし、前に打つた周囲の

ミ皆ゆるんでしまふのです。

ですから、釘の方向の定まる迄は二三回弱く打ち、釘の方向がこれでよいとなつたならば、なるべく強く、ぐんぐん打ち込み、最後には丁度頭がしづむ程度に一つこつん打つて止めるのです。

金槌の運動方向が釘の方向と一致しないミ釘が曲がりやすから注意を要します。かう書いて来るミ大變面倒の事やうに思はれるかも知れませんが、實際は誰れでも多少の経験は持つて居られますし、大たこみではありません。

こんな事を書いて居つては面白くありませんから、次回には何か具體的のものを作るこみをお話いたしませう。